

よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 ～今こそ、特別活動の充実を！～



東部教育事務所 石川 雅規

なぜ、今、特別活動なのか？

理由 1：新型コロナウイルスによる臨時休業

→家庭学習への対応、オンラインサポート授業、オンライン学習サービス等

→児童生徒の自主的、実践的な態度が身に付いているかどうか

理由 2：学校再開後の「温かい学級づくり」

児童生徒の不安（学習の遅れ、感染症への対応、友達関係等）

→朝の会や帰りの会に加えて、意図的・計画的な指導の場の設定

理由 3：世界に目を移すと、エジプト国内の全ての学校の新カリキュラムに、週1時間の「TOKKATSU」の時間が設定され、近隣のアフリカ諸国やアラブ、アジア諸国にも拡散されつつある。



特別活動（学級活動）の重要性

【特別活動の目標】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

【特別活動において育成すべき資質・能力の重要な視点】

三つの視点は、特別活動において育成を目指す資質・能力における重要な要素であり、これらの資質・能力を育成する学習過程においても重要な意味をもつ。三つの視点は、相互に関わり合っていて、明確に区別されるものではない。

「人間関係形成」

多様な他者とよりよく関わろうとする

集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点である。人間関係形成に必要な資質・能力は、集団の中において、課題の発見、実践、振り返りなどの特別活動の学習過程全体を通して、個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で育まれると考えられる。

「社会参画」

集団の一員としての役割を果たそうとする

よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点である。社会参画に必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれると考えられる。

「自己実現」

「なりたい自分」に近づこうと努力する

一般的には様々な意味で用いられるが、特別活動においては、集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点である。

【集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる】

児童は学級や学校という社会での生活の中で、様々な集団活動を通して、多様な人間関係の築き方や、集団の発展に寄与することや、よりよい自分を追求することなどを学ぶ。特別活動で身に付けたこのような資質・能力と、他教科で学んだことを、地域・社会などその後の様々な集団や人間関係の中で生かしていく。



特別活動の特質は、課題を見いだし解決に向けて取り組む実践的な学習であるということや、各教科等で学んだことを実際の生活において総合的に活用して実践するというところにある。



特別活動の特質に応じた見方・考え方は「集団や社会の形成者としての見方・考え方」として示す。



各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けることである。

【特別活動の目標】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

【特別活動において育成すべき資質・能力の重要な三つの視点】

- ① 人間関係形成・・・多様な他者とよりよく関わろうとする。
- ② 社会参画・・・集団の一員としての役割を果たそうとする。
- ③ 自己実現・・・「なりたい自分」に近づこうと努力する。

特別活動の各活動・学校行事の中心は【学級活動】



学級活動は、学校生活において最も身近で基礎的な所属集団である「学級」を基盤とした活動です。様々な集団活動を通して、学級や学校生活の中から集団や個人の課題を見いだし解決するための方法や内容をみんなが話し合い、集団として「合意形成」を図り協力して実践したり、一人一人が自己の課題の解決方法について「意思決定」し実践したりして、よりよい生活や人間関係を築き、学校生活の充実と向上を図ります。

学級活動(1)と(2)(3)の学習過程(例)

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

(1)は全員で協力して楽しく豊かな学級・学校生活にするために、みんなを取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどの課題を取り上げる。

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

(2)は現在の生活上の課題、(3)は現在及び将来を見過した生活や学習に関する課題を取り上げる。

事前の活動

① 問題の発見・確認

生活上の諸問題から課題を見いだし、学級全員で「課題」を設定する。

日常生活における共通の問題から教師が「題材」を設定する。

本時の活動・話し合い活動

② 解決方法等の話し合い

内容や方法、役割分担などについて意見を出し合ったり、くらべ合ったりしながら話し合う。

原因や改善の必要性を探ったり、具体的な解決方法を見付けたりするために話し合う。

③ 解決方法の決定

意見の通いや多様性を認め合い、折ひ合いをつけて集団として「合意形成」を図る。

話し合いを生かして、自分に合った具体的な解決方法や個人目標を一人一人が「意思決定」する。

事後の活動

④ 決めたことの実践

決定したことについて、自己の役割を果たしたり、互いのよさを生かして協働して実践したりする。

意思決定した解決方法をもとに目標の実現に向けて、個人で実践し粘り強く努力する。

⑤ 振り返り

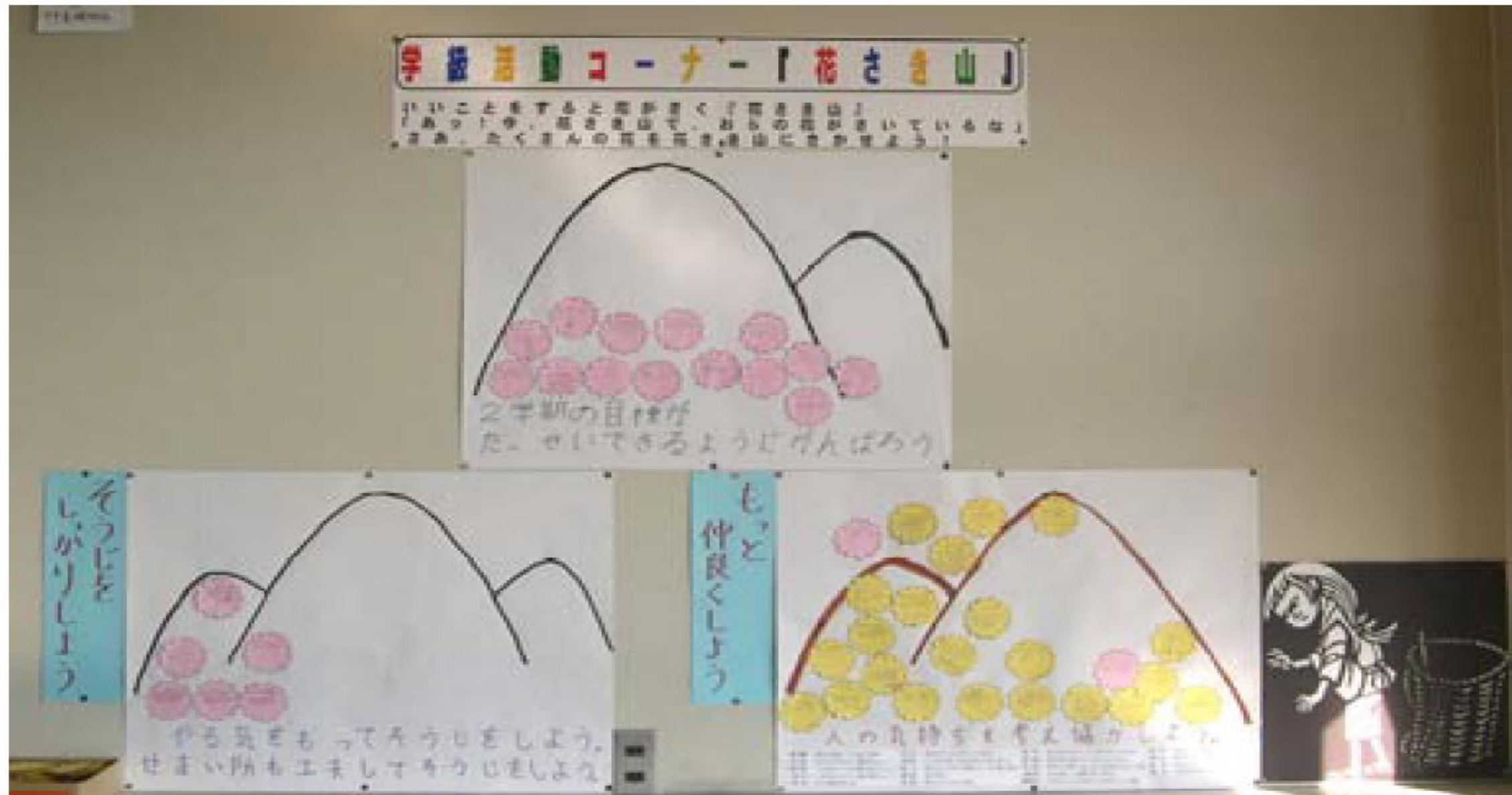
一連の実践の成果や課題を振り返り、次の課題解決に生かす。

実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、次の課題解決に生かす。

次の課題解決へ

次の課題解決へ

資料1 学級活動コーナー「花さき山」



小学校新学習指導要領準拠

みんなで、
よりよい学級・学校生活をつくる

小学校編

特別活動

自分で決めて
がんばるって
大事だ

学級会などで
学級や学校の生活が
楽しくなる

児童の
笑顔

保護者の
信頼

教師の
やりがい

一人一人が
役に立つ喜びを
感じている

児童と共に
悩み 喜び
成長できる

子供も先生も
みんな仲よく
生き生きしている

学級集団の
高まりが
実感できる

平成30年7月

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

今こそ、 特別活動の充実を！

各教科等で育成した資質・能力を、
実践的な活動を通して、
社会生活に生きて働く汎用的な力
として育成します。

学級経営に役立ちます

- みんなでよりよい学級生活を目指す活動を通して、
学級集団の協働性を高めます。
- 役に立つ喜びを実感し、互いのよさを認め合う活動で、
一人一人が大切にされる学級になります。

学力向上につながります

- 学級会などで身に付けた集団で問題を解決していく力は、
各教科等の学習に生かされます。
- 児童が自主的によりよい生活や人間関係を築くことにより、
学び合う学級の雰囲気がつくられ、学ぶ意欲が高まります。

キャリア教育の要です

- 学級や学校の一員として役割を果たすことにより、
自立して生きるために必要な能力や態度を育てます。
- よさや可能性を生かして努力する活動を通して、
なりたい自分の実現につなげます。(キャリア形成)

生徒指導上の問題を未然防止します

- 互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶことにより、
いじめの未然防止等につながります。
- 自分で決めて、自分でがんばる活動の場や機会を通して、
自己指導能力を高めます。

道徳的実践に結び付きます

- 特別活動における集団活動や体験活動は、
道徳的な実践の中心的な学習活動の場として、
道徳教育において重要な役割を果たします。
- 実践を通して学ぶ特別活動と、心を育てる道徳科を関連させることにより、
自己の生き方についての考えを深めます。

【作成協力委員】 ※職名は平成30年7月現在

新垣寿志
池田洋士
小笠原陽二
川原陽子
川本和孝

那覇市立教育研究所指導主事
北九州市立小石小学校長
愛媛県松山市立味酒小学校教頭
広島県庄原市立美古登小学校教頭
玉川大学TAPセンター准教授

佐藤真理子
嶋田克彦
清水弘美
杉田 洋
鈴木 恵

秋田県仙北市立角館小学校教諭
横浜市立幸小学校長
東京都八王子市立浅川小学校長
國學院大学人間開発学部教授
さいたま市立大谷場中学校教諭

芳賀正志
橋谷由紀
前田 学
山崎邦彦
渡邉 淳

滋賀県大津市立堅田小学校教諭
日本体育大学児童スポーツ教育学部教授
京都市立松陽小学校長
福岡県宗像市立玄海東小学校主幹教諭
埼玉県加須市教育委員会主幹兼指導主事

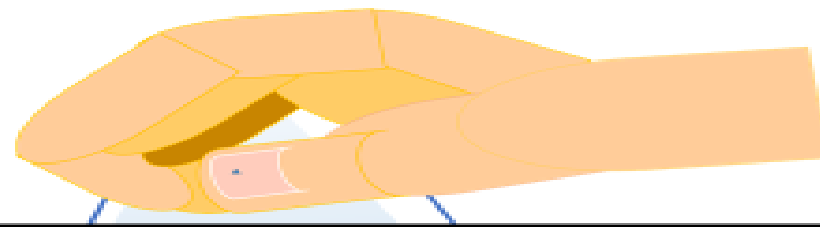
(敬称略 五十音順)

国立教育政策研究所においては、安部恭子教育課程調査官（文部科学省初等中等教育局教科調査官）が作成・編集にあたった。



文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

<編集・発行> 教育課程研究センター 平成30年7月
TEL : 03-6733-6825 FAX : 03-6733-6978
URL : http://www.nier.go.jp/O4_kenkyu_annai/div08-katei.html



三つの視点を、学習過程のそれぞれの場面で適切に発揮できるようにする

【人間関係形成】

多様な他者とよりよく関わろうとする

【社会参画】

集団の一員としての役割を果たそうとする

【自己実現】

「なりたい自分」に近づこうと努力する

キャリア教育

児童(生徒)が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力(※)を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること。
※人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力

学級経営

学びに向かう集団の基盤の育成

児童(生徒)一人一人のよさや可能性を生かすとともに、他者の失敗や短所に寛容で共感的な学級の雰囲気醸成する。

学習や生活の基盤として、教師と児童(生徒)との信頼関係及び児童(生徒)相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。

学級活動における自発的、自治的な活動を中心として学級経営の充実を図ること。

授業改善(主体的・対話的で深い学び)

【特別活動における「主体的な学び」の実現とは】
学級や学校における集団活動を通して、生活上の諸問題を自分たちで見いだしたり、解決できるようにしたりする。

【特別活動における「対話的な学び」の実現とは】
特別活動の全ての内容で重視している「話し合い活動」を通して、自己の考え方を協働的に広げ深める。

【特別活動における「深い学び」の実現とは】
特別活動が重視している「実践」を単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動とし、そのプロセスで教科等の学習で身に付けた知識や技能を働かせ、三つの視点に関わる議題や題材に取り組むよう意図的・計画的に指導していく。

道徳的实践

特別活動は道徳的な実践そのものを行うこと、道徳科は道徳的な実践を行うために必要な内面的資質を養うことを目的としている。

生徒指導

学級活動における児童(生徒)の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童(生徒)、児童(生徒)相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。

学力向上

自己存在感

共感的な人間関係

自己決定

②学級経営

①授業改善（主体的・対話的で深い学び）

↓
学力向上

特別活動（学級活動）

③キャリア教育

④道德的実践

⑤生徒指導

①授業改善（主体的・対話的で深い学び）



学力向上

【特別活動における「主体的・対話的で深い学び」】

「主体的な学び」

学ぶことに興味・関心をもち、学校生活に起因する諸課題の改善・解決やキャリア形成の方向性と自己との関連を明確にしながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の活動を振り返りながら改善・解消に励むなど、活動の意義を理解した取組である。

特別活動においては、学級や学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を見いだし、解決できるようにすることが大切である。例えば、学級や学校の実態、自己の現状に即して、自ら課題を見いだしたり、解決方法を決めて自主的に実践したり、その取組を振り返り、よい点や改善点に気付いたりできるような学習過程とすることが大切である。

そうした学習過程によって、集団や自己の新たな課題の発見や目標の設定が可能となり、生活を更によりよくしようという次の活動への動機付けとなるなど、児童の**主体的な学び**が可能になる。

「対話的な学び」

児童相互の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方や資料等を手掛かりに考えたり話し合ったりすることを通して、**自己の考え方を協働的に広げ深めていく**ことである。

特別活動は多様な他者との様々な集団活動を行うことを基本とし、そこでの「話し合い」を全ての活動の中心に置いている。

対話的な学びは、学級など同一集団の児童同士の話し合いにとどまるものではない。異年齢の児童生徒や障害のある幼児児童生徒等、多様な他者と対話しながら協働することや地域の人との交流を通して自分の考えを広げたり、自分のよさやがんばりに気づき自己肯定感を高めたりすること、自然体験活動を通して、自然と向き合い、学校生活では得られない体験から新たな気づきを得ること、キャリア形成に関する自分自身の意思決定の過程において、他者や教師との対話を通して自己の考えを発展させることなど、様々な関わりを通して感性を豊かにし、**よりよい合意形成や意思決定ができるような資質・能力を育成すること**も、特別活動における対話的な学びとして重要である。

「深い学び」

学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、新たな課題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることで、学んだことを深めるのである。

特別活動における「深い学び」の実現には、特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉えることが大切である。特別活動における三つの視点のいずれにおいても各教科等で育成する資質・能力と様々に関わっており、基本的な学習過程を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方を総合的に働かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切である。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上



【特別活動の教育活動全体における意義】

特別活動は、「**集団活動**」と「**実践的な活動**」を特質とすることが強調されてきた。実践的な活動とは、児童が学級や学校生活の充実・向上を目指して、自分たちの力で諸問題の解決に向けて具体的な活動を実践することを意味している。したがって児童による実践的な活動を前提とし、実践を助長する指導が求められるのであり、児童の発意・発想を重視し、啓発しながら、「なすことによって学ぶ」を方法原理とする必要がある。

(1) 特別活動の特質を踏まえた資質・能力の育成

特別活動は、学校生活を送る上での基盤となる力や、社会で他者と関わって生きて働く力を育む活動として機能し、人間形成の中でも特に、情意面や態度面の資質・能力の育成について強調してきた。今回の改訂では、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育むことが重視され、そのために重要なことは、目標に明示されたように「様々な集団活動を通す」こと、「自主的、実践的な活動を重視する」ことである。**様々な集団活動の中で、「思考力、判断力、表現力等」を活用しながら他者と協力して実践することを通して、「知識及び技能」は実感を伴って体得され、活動を通して得られたことを生涯にわたって積極的に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」が育成されていく。**

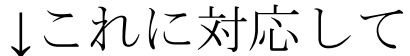
②学級経営

(2) 学級経営の充実と特別活動

特別活動は、教育課程全体の中で、特別活動の各活動・学校行事において資質・能力を育む役割だけではなく、**学校教育全体の活動を通して行われている学級経営に寄与する。**



第1章総則の第4の1の(1)「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、**日頃から学級経営の充実を図ること。**」が示されている。



第6章特別活動の第3の1の(3)で**学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として学級経営の充実を図ることが示されている。**

学級経営の内容は多岐にわたるが、学級集団としての質の高まりを目指したり、教師と児童、児童相互のよりよい人間関係を形成しようとしたりすることは、その中心的な内容である。

児童が自発的、自治的によりよい生活や人間関係を築こうとして様々に展開される特別活動は、結果として児童が主体的に集団の質を高めたり、よりよい人間関係を築いたりすることになる。

学級がよりよい生活集団や学習集団へと向上するためには、教師の意図的、計画的な指導とともに、児童の主体的な取組が不可欠である。まさしく、**学級経営は、特別活動の要として計画され、特別活動の目標に示された資質・能力を育成することにより、さらなる深化が図られることとなる。**

学びに向かう集団づくりの基盤 ➡ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善

③キャリア教育

(3) 各教科等の学びを実践につなげる特別活動

特別活動では、各教科等で育成した資質・能力を、集団や自己の課題の解決に向けた実践の中で活用することにより、実生活で活用できるものにする役割を果たすものである。

各教科等の特質に応じて育まれた資質・能力を、実践的な集団活動を通して、**統合的で汎用的な力に変え、実生活で活用できるようにする**ということが求められる。

第1章総則の第4の1の(3)「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、**特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。**」と新たに特別活動を要とするキャリア教育の充実が示された。

これからの学びや自己の生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、**教育活動全体の取組を自己の将来や社会につなげていくための要として、特別活動を位置付けることとなった。**

特別活動を通して、各教科等で学んだことを実生活で活用できるものとしていくことが求められている。

(4) 学級や学校に文化を創造する特別活動

特別活動は、楽しく豊かな学校文化をつくる実践的な活動である。例えば、学級活動における自発的、自治的な活動を通して、児童は学級生活の主體的な参画者となる。また、児童会活動やクラブ活動、学校行事における様々な集団活動を通して、楽しく豊かな学校文化が醸成され、各学校の特色ある教育活動の展開が可能になってくる。

【特別活動の内容相互の関連】

学級活動においては、児童の学校における基礎的な生活単位ともいえるべき学級集団を基盤として行われる活動である。学級活動は特別活動の各活動・学校行事の中心となる教育活動である。

学級活動において、児童の自主的、実践的な取組の積み重ねにより身に付いた資質・能力が、児童会活動、クラブ活動、学校行事においても発揮される。一方、児童会活動やクラブ活動、学校行事で育まれた自主的、実践的な態度や自分への自信が学級活動で発揮されるなど、往還の関係にあると言える。

【特別活動と各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などとの関連】

(1) 各教科及び外国語活動との関連①

各教科等の学習で獲得した資質・能力などが、集団活動の場で総合的に生かされ、発揮されなければならない。逆に、各教科等で育成された資質・能力は、特別活動において、実生活上の課題解決に活用されることによって、思考力、判断力、表現力等は鍛えられ、知識や技能は実感をもって体得したり、各教科等を学ぶ意義の理解が深まったりするなど、より確かなものとなっていく。

各教科等で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うためには、**児童は失敗を恐れずに行動することができたり、他の児童と互いの考えを伝え合ったり協力し合ったりすることができるような、学級における児童同士の間関係や、教師と児童の信頼関係があることが重要になる。**特別活動は、学級活動における自発的、自治的な活動の中心として、学級経営の充実に資するものであり、**特別活動の充実により各教科の「主体的・対話的で深い学び」が支えられるという関係にもある。**逆に、各教科等における主体的な学習や対話的な学習を通して、**児童同士の信頼関係が深まり、それによって特別活動がより充実することも考えられる。**

教科横断的な視点

【特別活動と各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などとの関連】

(1) 各教科及び外国語活動との関連②

国語科との関連においては、国語科で身に付いた「話すこと・聞くこと的能力」が特別活動においてよりよい生活や人間関係を築いたり、集団としての意見をまとめたりするための話し合い活動に実践的に働くことになる。また、特別活動で養われることになる、よりよい生活を築くために話し合ったり、言葉で表現したり、まとめたり、発表し合ったりするための資質・能力が、国語科における「話すこと・聞くこと的能力」「書くこと的能力」を養うための学習においても生かされることになる。学級活動や児童会活動などで行われる調査・統計の結果を効果的にまとめたり、説明したりするなどの基礎となる能力は、**算数科、理科、社会科などで培われるものである。**

外国語活動との関連については、外国語活動において「友達との関わりを大切にしたい体験的なコミュニケーションを行う」特質を生かして、「文化的寛容さを持ち、多様な他者を尊重する態度」を大切にする特別活動においても、友達とのコミュニケーションを図る活動を一層効果的に展開できるようにする必要がある。

教科横断的な視点

④道徳的実践

(2) 道徳科との関連

(道徳教育と特別活動) ①

特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、道徳教育において果たす役割は大きい。特別活動の目標には、「集団活動に自主的、実践的に取り組み」、「互いのよさや可能性を発揮」、「集団や自己の生活上の課題を解決」など、道徳教育でもねらいとする内容が含まれている。また、育成を目指す資質・能力には、「多様な他者との協働」、「人間関係」、「自己の生き方」、「自己実現」など、道徳教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、道徳教育において果たすべき役割は極めて大きい。

多様な他者の意見を尊重しようとする態度、自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度、よりよい人間関係を形成しようとする態度、みんなのために進んで働こうとする態度、自分たちできまりや約束をつくって守ろうとする態度、目標をもって諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性を大切にして集団活動を行おうとする態度などは、集団活動を通して身に付けたい道徳性である。

(2) 道徳科との関連

(道徳教育と特別活動) ②

学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」は、学級や学校の生活上の諸課題を見いだし、これを自主的に取り上げ、協力して解決していく自発的、自治的活動である。

→児童による自発的、自治的な活動によって、望ましい人間関係の形成やよりよい生活づくりに参画する態度などに関わる道徳性を身に付けることができる。

学級活動「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」では、基本的な生活習慣の形成やよりよい人間関係の形成、心身ともに健康で安全な生活態度の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成を示している。

学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」では、現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成、社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解、主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用を示している。

→自らの生活を振り返り、自己の目標を定め、粘り強く取り組み、よりよい生活態度を身に付けようとすることは、道徳性を養うことと密接に関わるものである。

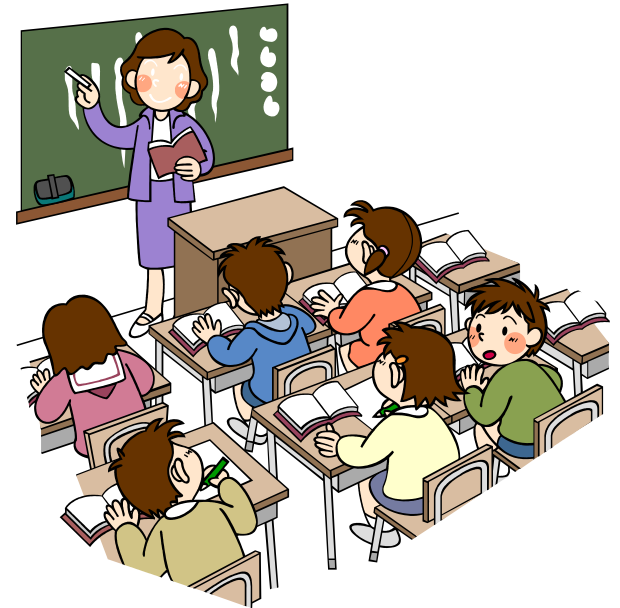
(2) 道徳科との関連

(道徳教育と特別活動) ③

児童会活動においては、異年齢によるよりよい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度などに関わる道徳性を養うことができる。

クラブ活動においては、異年齢によるよりよい人間関係の形成や個性の伸長、よりよいクラブ活動づくりに参画する態度などに関わる道徳性を養うことができる。

学校行事においては、よりよい人間関係の形成、自律的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、社会奉仕などに関わる道徳性を養うことができる。



（道徳科と特別活動）①

特別活動は、道徳科の授業で学んだ道徳的価値の理解及びそれに基づいた自己の生き方についての考えを、よりよい学級や学校の生活と人間関係を築こうとする実践的な活動や、キャリア形成と自己実現に向けた活動の中で実際に言動に表すとともに、集団の一員としてのよりよい生き方についての考えを深めたり、身に付けたりする場や機会でもある。

児童が特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践について、道徳科の授業でそれらについて取り上げ、学級全体でその道徳的な意義について考えられるようにし、**道徳的価値として自覚**できるようにしていくこともできる。さらに道徳科の授業での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、**道徳的な実践との有機的な関連**を図る指導が効果的に行われることにもなる。

（道徳科と特別活動）②

特別活動における「自己の生き方についての考えを深める（道徳科の目標）」とは、実際に児童が実践的な活動や体験的な活動を通して、現在及び将来にわたって希望や目標をもって生きることや、多様な他者と共生しながら生きていくことなどについての考えを深め、集団の一員としての望ましい生き方についての認識をもてるようにすることである。**教材を活用して、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める道徳科の授業とは力点の違いを明確にして指導する必要がある。**

「よりよい人間関係」について、学級活動において話し合う場合には、学級における人間関係に係る現実の問題をどのように解決するかを話し合い、集団として取り組むべき解決策を合意形成したり、自分が行うことを意思決定したりすることが目的である。他方、道徳科において「よりよい人間関係」について話し合うということは、なぜ仲よくすることが大切なのか、仲よくすることが大事だと分かっているけどできないのはなぜなのか、といったことを問いながら道徳的価値の理解を深めながら自分自身の生き方についての考えを深めていくことが目的である。**前者は道徳的な実践そのものを行うこと、後者は道徳的な実践を行うために必要な内面的資質を養うことを目的としている。**

(3) 総合的な学習の時間との関連

両者とも、各教科等で身に付けた資質・能力を総合的に活用しながら、児童が自ら現実の課題の解決に取り組むことを基本原理としている点に、共通性が見られる。体験的な学習を重視すること、協働的な学習を重視することも同様である。自己の生き方についての考えを深める点においても通じるところがある。特別活動は「**実践**」に、総合的な学習の時間は「**探究**」に本質があると言えることができる。

特別活動の特質である「実践的な取組」とは、身に付けた資質・能力を実生活に生かし、実生活の中で実感を伴って理解するという意味をもっており、他教科等で学んだことやそれらを横断的・総合的に捉えたことを実生活の中で生かし、現実の問題を解決するという実践の場としての役割を重視している。

特別活動における「解決」は、実生活における、**現実の問題そのものを改善すること**である。総合的な学習の時間における「解決」は一つの疑問が解決されることにより、**さらに新たな問いが生まれ、物事の本質に向けて問い続けていくもの**である。

総合的な学習の時間において計画した学習活動が、学習指導要領に示した特別活動の目標や内容と同等の効果が得られる場合も考えられる。このため、第1章総則の第2の3(2)のエにおいて、このような場合について、総合的な学習の時間の実施によって、特別活動の学校行事の実施に替えることができることとする規定を設けている。

⑤生徒指導

(4) 生徒指導等との関連①

第6章の第3の1の(3)「学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童、児童相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること。**その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。**」

第1章の第4の1の(2)「児童が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、児童理解を深め、**学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。**」

生徒指導は、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、**社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと**」である。このことは、「個性の伸長」や「社会的な資質・能力の育成」の役割を担ってきた特別活動で大切にされ、深い関わりを指摘されてきたところである。

特別活動の指導は、個々の児童や集団での生活や活動の場面において、児童の自主性や自発性を尊重しながら展開されるものであり、児童の積極的な活動が展開されていくためには、深い児童理解と相互の信頼関係を前提とした生徒指導の充実が不可欠である。また、**生徒指導のねらいである自己指導能力や自己実現のための態度や能力の育成は、特別活動の目標と重なる部分もある。**



(4) 生徒指導等との関連②

特別活動と生徒指導との関わり方として、次の3点を挙げることができる。

ア 所属する集団を、自分たちの力によって円滑に運営することを学ぶ

イ 集団生活の中でよりよい人間関係を築き、それぞれが個性や自己の能力を生かし、互いの人格を尊重し合って生きることの大切さを学ぶ

ウ 集団としての連帯意識を高め、集団(社会)の一員としてのよりよい態度や行動の在り方を学ぶ

これらの内容は、**学級活動と深い関わり**がある。特に学級活動の(2)の「基本的な生活習慣の形成」、「よりよい人間関係の形成」、「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」、「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」と(3)の「現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成」、「社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」、「主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」においては、**個々の児童の自己指導能力の育成を目指して、地域や学校、児童の実態に応じて、学級活動の時間に計画的に指導することになる。**

生徒指導は、児童が自らを生かし自己実現できるよう援助する教育機能であり、学校の教育活動全体を通して推進することを基本としている。その中であって学級活動は、児童が日常生活を営む上で必要な様々な行動の仕方を、計画的、発展的に指導する教育活動である。その意味で**学級活動には、各教科等の時間以上に生徒指導の機能が多く作用していると考えられる。**

生徒指導は、学業指導、適応指導、進路指導、社会性指導、道徳性指導、保健に関する指導、安全に関する指導、余暇指導などに分けて考え、計画されることがある。これらの内容は、特別活動の全体、なかでも学級活動の活動内容と密接な関連をもっており、このことから学級活動の時間は、生徒指導が中心的に行われる場と言えるのである。

さあ、学級活動をはじめよう！！

- ①計画委員会を組織：30人学級であれば、5人グループを6つ編成し、年間で固定する。
- ②学級活動の進め方マニュアルの作成（資料1）
- ③学級活動ノート作成（資料2）
- ④学級活動コーナーの設置（資料3）

できれば

- ⑤計画委員会（議長団）活動週予定表の作成（資料4）
- ⑥学級活動進行計画表の作成（資料5）
- ⑦計画委員会（議長団）が、1年間、その議題（題材）の担当になる。

学級活動（話し合い活動）の進め方

1. (副)「1. 始めの言葉」

(議)「これから第()回学級活動を始めます。気をつけ、れい」

2. (副)「2. 役割のしょうかい」

(議)「ぼく(私)は議長の()です。よろしくお願いします。」

「ぼく(私)は副議長の()です。よろしくお願いします。」

「ぼく(私)は黒板書記の()です。よろしくお願いします。」

「ぼく(私)はノート書記の()です。よろしくお願いします。」

「ぼく(私)は資料係の()です。よろしくお願いします。」

3. (副)「3. 議題の確認」

(議)「今日の議題は()です。」

4. (副)「4. 提案理由の説明、質問」

(議)「提案理由を提案者の()君(さん)発表してください。」

(議)「ありがとうございました。今の提案に質問はありますか。」

(副)「先生から何かお話はありませんか。」

質問があれば

(副)「()君(さん)」

(議)「提案者の()君(さん)、答えてください。」

(議)「()君(さん)、どうですか。」「ほかにありませんか。」

資料があるとき

(副)「資料係から資料の説明があります。」

(議)「何か質問はありますか。」

5. (副)「5. 話し合い」

(議)「それでは学級活動ノートに書かれてある順に話し合います。まず始めに()についてです。意見を発表してください。」

(副)「()君(さん)」

☆ 上手に話し合うために ☆

◎ 分かりづらい意見の時は、議長の分かったところまで聞いて確かめる。

(議)「()君(さん)、今の意見は()ということですか。」

◎ 議長が確かめられない時は、もう一度くわしく説明してもらう。

(議)「()君(さん)、よく分からなかったので、すみませんがもう一度くわしく説明してください。」

◎ 小さい声で聞こえなかったら、もう一度言ってもらう。

(議)「()君(さん)、よく聞こえなかったので、すみませんがもう一度言ってください。」

◎ まだ意見を聞きたいが、手を挙げる人が少ない時は、まわりの人と話し合わせる。

(議)「まわりの人と話し合って考えをまとめてください。」
～1分くらいたってから～

(議)「そろそろ意見を発表してください。」

◎ 手を挙げる人がいつも同じ時は、手を挙げていない人にも意見を聞いてみる。

(1) クラスの考えをまとめる、決める

(議)「いろいろな意見が出ましたが、クラスとしての考えをまとめます。何か意見はありますか。」

※様々な意見を認め合い、折り合いをつけて集団としての意見をまとめる。

(議)「話し合いの結果、()に決まりました。」

6. (副)「6. 決まったことの確認」

(議)「ノート書記の()君(さん)お願いします。」

(2) 個人目標を決める

(先生が司会をする場合もあります)

(議)「問題の原因や解決方法を参考にして個人の目標を考えてください。」

※話し合いを生かして、自分に合った解決方法や個人目標を一人一人が決定する。

6. (副)「6. 個人目標の発表」

(議)「()君(さん)、発表してください。」

7. (副)「7. 先生の話」

(議)「先生、お願いします。」

8. (副)「8. 終わりの言葉」

(議)「これで学級活動を終わりにします。気をつけ、れい」

第 回 学級活動ノート (月 日 曜日 校時)
年 組 名前()

議 題			
提案者			
提 案 理 由			
議 長		黒板書記	
副議長		ノート書記	
話 し 合 い の 進 め 方			
1. 始めの言葉			
2. 役割の紹介			
3. 議題の確認			
4. 提案理由の説明・質問			
5. 話し合い			
話 し 合 い の 内 容	自 分 の 考 え		
①			
②			
③			
6. 決まったことの確認 集団決定 () 個人決定 ()			
7. 先生の話			
8. 終わりの言葉			

議 長 団 反 省 カ ー ド

◎進んでできた ○できた △もう少し		
事前	・ミニ学級会を開くことができた。	
	・学級活動ノートを作成することができた。	
	・学級活動進行計画カードを作成することができた。	
	・話し合いのリハーサルをすることができた。	
本時	・学級活動ノートを前日に配り、議題や提案理由、話し合いの内容をみんなに知らせることができた。	
	・みんなの意見を上手にまとめることができた。	
事後	・今日の話し合いを協力して進めることができた。	
	・話し合いのあと、学級活動コーナーを使って、みんなに目標に向けてのやる気をもたせている。	
(私の感想)		(先生から)

学 級 活 動 評 価 カ ー ド

◎よくできた ○だいたいできた △もう少し		
事前	・議題や提案理由、話し合いの内容がわかった。	
	・学級活動ノートに自分の考えを書くことができた。	
話し合い	・友達の見解と自分の見解を比べながら聞き、真剣に話し合うことができた。	
	・自分の見解を発表することができた。	
	・クラスとして決まったこと（合意形成）がわかった。	
事後	・自分の目標（意思決定）を立てることができた。	
	・クラスとして決まったこと（合意形成）や個人の目標（意思決定）が守れている。	
(私の感想)		(先生から)

話し合いの進め方

1. 始めの言葉
2. 役割の紹介
3. 議題の確認
4. 提案理由の説明・質問
5. 話し合い

計画委員会の大切な仕事

話し合いの内容	自分の考え
①	
②	
③	
6. 決まったことの確認	集団決定 () 個人決定 ()
7. 先生の話	
8. 終わりの言葉	

	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
事前の活動	問題の発見 教師の適切な指導の下に、児童が諸問題を発見し、提案をする	題材の確認 年間指導計画により、個々の児童が共通に解決すべき問題として「題材」を決める
	学級としての課題の選定 協力して達成したり、解決したりする学級として取り組むべき共同の問題を決めて、問題意識を共有する	課題の設定 取り上げる題材について学級の問題等を確認し、課題を設定する
	議題の決定 目標を達成したり、問題を解決したりするために、全員で話し合うべき「議題」を決める	共通の課題の設定 個々の児童が解決すべき共通の問題として授業で取り上げる内容を決めて児童に伝え、問題意識の共有化を図る
	活動計画の作成 話し合うこと、決まっていることなど、話し合い活動（学級会）の活動計画を作成する（教師は指導計画）	指導計画の作成 本時の指導計画や資料を作成する
	問題意識を高める 話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、自分の考えをまとめるなど問題意識を高める	問題意識を高める 授業において取り上げる問題について自分の現状について考えたり、学級の現状を調べたりして問題意識を高める
本時の活動	集団討議による合意形成	
	提案理由の理解 提案理由に書かれた課題の解決に向けて話し合うため、内容を理解しておく	課題の把握 アンケートや調査結果を活用し、自分自身の課題としてとらえられるようにする
	解決方法等の話し合い 一人一人が多様な考えを発表し、意見の違いや共通点をはっきりさせながら話し合う	原因の追求 原因を整理して、解決に向けての方向性をはっきりとさせ、改善の必要性を感じる
	合意形成 少数の意見も大切にしながら、学級全体の合意形成を図る	解決方法等の話し合い みんなで話し合い、協力して個々の意思決定へと向かっていけるようにする
事後の活動	決めたことの実践 合意形成したことをもとに、役割を分担し、全員で協力して、目標の実現を目指す	個人目標の意思決定 強い意志をもって、個に応じた具体的な実践方法やめあてを決める
	決めたことの実践 意思決定したことをもとに、個人として努力し、目標の実現を目指す	決めたことの実践 意思決定したことをもとに、個人として努力し、目標の実現を目指す
	振り返り 活動の成果や過程などについて振り返り、評価をする	振り返り 努力の成果や過程について振り返り、評価をする
	次の課題解決へ	次の課題解決へ

資料4

計画委員会（議長団）活動週予定表

曜	計画委員会（議長団）の活動	活 動 内 容
月	○議題箱を確認し、議題（題材）を決定する。 ※議題箱に議題（題材）がない場合は先生に伝える。	○議題（題材）を決定する際には、次のことに気をつける。 ・ほとんど全員に関係しているか。 ・自分たちで決めることができるか。 ・今すぐ話し合った方がいいことか。 ・解決すれば、クラスや生活がよくなるか。
火	○学級活動ノートを完成させ、先生に確認してもらう。	○議題（題材）や提案者、提案理由、話し合いのめあて、役割分担、話し合いの柱などを考え、学級活動ノートを完成させる。
水	○帰りの会で、学級活動カードに自分の考えを書いてくるように全員に伝える。	○学級活動コーナーに学級活動ノート（拡大版）を掲示し、議題（題材）名や話し合いの柱などを知らせておく。
木	○学級活動ノートを集める。 ○学級活動進行計画表を作成する。	○朝のうちに全員の学級活動ノートを集め、どのような考えが書かれているのか、事前に確認する。 ○当日のリハーサルを行い、話し合いの進め方などを委員全員で考える。
金	○学級活動当日（3時間目） ○帰りの会で議題（題材）を募集する（次の計画委員会）。	○クラス全員で有意義な話し合いになるよう、議長団全員で協力して話し合いを進める。 ○月曜日の朝の会までに、議題（題材）を議題箱に入れるように伝える。

◎計画委員（議長団）は、20分休みや昼休み、放課後などを使って、仕事を進めましょう！

資料5

学級活動進行計画表

議題（題材）名 クラスのいじめ防止宣言を考えよう

話 合 い の 柱	時間	予想される意見	気をつけることなど
①どんなクラスにして いきたいか話し合う。	5分	・みんなが仲のよいクラス ・いじめのないクラス ・みんなが助け合うクラス	○意見を聞き取り、板書するが、あまり時間をかけすぎないようにする。
②理想のクラスにする ためにどんなことが 必要か話し合う。	15分	・思いやりの心をもつ。 ・人の嫌がることを言わない、しない。 ・困っている子を助ける。	○意見が出ない場合や話し合いが進まない場合は、考える時間をあげたり、近くの子と相談させたり、時間をかけて話し合わせる。
③クラスのいじめ防止 宣言を決める。	20分		○多数決で決めるだけでなく、ふさわしい言葉をつなぎ合わせるなど、折り合いをつけて決定していく。

4 年間指導計画の見直しの例 小学校第2学年

回	議題・題材	内容	活動内容・留意点 等
1	係を決めよう	(1)イ	・児童の希望を基に、係を決定する。
2	小学2年生になって	(2)イ (3)ア	・2年生の学習や生活を知り、希望をもって生活しようとする意欲をもつ。 ・2年生における具体的なめあてを立てる。
3	雨の日の過ごし方について考えよう	(1)ア	・仲良く楽しく安全に雨の日を過ごすことの大切さについて知り、今後の雨の日の遊び方やルールについて考える。
4	安全な道路の歩き方をおぼえよう	(2)ウ	・道路の横断の仕方等、安全な道路の歩き方を知り、これからの生活に生かすことを考える。
5	お楽しみ会をしよう	(1)ア	・お楽しみ会でどんなことをするのかについて話し合い、内容や方法を決める。 ※スポーツやゲーム等の他、特技発表など、自分のよさを発揮したり、友達のよさを認め合ったりする活動を取り入れる。
6	おそうじだいすき	(3)イ	・掃除のよさについて知り、掃除を上手にできるようにするために頑張ることを決める。
7	ふわふわ言葉とちくちく言葉	(2)イ	・自分が言われて嫌な言葉や嬉しい言葉について話し合い、友達と仲良くするために何をどのように頑張るのかを決める。
8	歯みがきの大切さ	(2)エ	・正しい歯みがきの仕方について知り、今後の歯みがきについて、自分のめあてを立てる。
9	2年生がんばったね会をしよう	(1)ア	・会でどんなことをするのかについて話し合い、内容や方法を決める。 ※自分や学級の成長に気付くような発表を伴う集会が考えられる。
10	もうすぐ3年生	(3)ア	・3年生に向けて頑張りたいことについて話し合い、今後の生活に向けた具体的なめあてを立てる。

【お楽しみ会をしよう】（1）ア

- ①どんなお楽しみ会にしたいか話し合う。
- ②何をするのか話し合う。
- ③どんな仕事や係が必要か考える。

【学級活動の内容】 小学校（解説 p 46・47）

（１）学級や学校における生活づくりへの参画

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- ア 基本的な生活習慣の形成
- イ よりよい人間関係の形成
- ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

（３）一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
- イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
- ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

【学級活動の内容】 中学校（解説 p 44・45）

- (1) 学級や学校における生活づくりへの参画
 - ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
 - イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
 - ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
 - イ 男女相互の理解と協力
 - ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応
 - エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
 - オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
 - ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
 - イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成
 - ウ 主体的な進路の選択と将来設計

4 年間指導計画の見直しの例 小学校第4学年

回	議題・題材	内容	活動内容・留意点 等
1	学級目標、係委員会を決めよう	(1)ア イ	・事前に集約していた「どんな学級にしたいか」を基に学級目標を決定する。 ・児童の希望を基に、委員会・係を決定する。
2	4年生になって	(2)イ (3)ア	・4年生の学習や生活を知り、不安を解消し互いに支え合う人間関係をつくる。 ・4年生における具体的なめあてを立てる。
3	安全な自転車の乗り方	(2)ウ	・自転車に乗る際の注意点について知り、安全な自転車の乗り方についてのめあてをもつ。 ※交通安全教室等との関連を図る。
4	上手な図書室の使い方	(3)ウ	・自分の好きな本の探し方を知るとともに、図書室の利用法について話し合い、さらに図書室を利用するためのめあてを立てる。
5	友達と仲良くしよう	(2)イ	・けんかが起こらないようにするために、どのようなことをすればいいのかを話し合い、友達と仲良くするための自分のめあてを立てる。
6	進んで働くこと	(3)イ	・清掃や給食、日直や係活動等を取り上げて話し合い、学校生活における自分の役割について自覚し、今後、頑張っていくことを決める。
7	いじめのない楽しい学級にしよう	(1)ア (2)イ	・いじめを生まない集団をつくるためにはどうしたらよいか話し合い、みんなでできる取組について決める。 ※道徳や人権集会等との関連を図る。
8	見直そう！ゲームの時間	(2)ア	・ゲームのやり過ぎによる問題点を知り、時間を守れるようにするための方法について話し合い、自分のめあてを立てる。
9	4年生ががんばったね会をしよう	(1)ア	・会でどんなことをするのかについて話し合い、内容や方法を決める。 ※自分や学級の成長に気付くような発表的な集会が考えられる。
10	もうすぐ高学年	(3)ア	・高学年に向けて頑張りたいことについて話し合い、今後の生活に向けた具体的なめあてを立てる。

【友達と仲よくしよう】（2）イ（道徳科との関連を図る）

- ①なぜ仲よくすることが大切なのか話し合う。
- ②なぜ仲よくできないのか話し合う。
- ③友達と仲よくするためのクラス目標を考える。
- ④友達と仲よくするための個人目標を考える。

4 年間指導計画の見直しの例 小学校第6学年

回	議題・題材	内容	活動内容・留意点 等
1	学級目標、係委員会を決めよう	(1)ア イ	・事前に集約していた「どんな学級にしたいか」を基に学級目標を決定する。 ・児童の希望を基に、委員会・係を決定する。
2	6年生になって	(2)イ (3)ア	・6年生の学習や生活を知り、不安を解消し互いに支え合う人間関係をつくる。 ・6年生における具体的なめあてを立てる。
3	自分を大切にしよう ～こころのSOSの出し方、 受け止め方～	(2)ア ウ エ	・ストレスへの様々な対処方法について話し合い、現在及び今後大きな不安や 悩みを抱えた際の援助の求め方について考える。※「生活のリズム」「運動、睡 眠、食事」等、心身の健康につながる生活について取り上げることも考えられる。
4	委員会パワーアップ作戦	(3)イ	・学期の委員会活動を振り返り、委員会活動を改善させるための方法に ついて話し合う。
5	学校行事を成功させよう	(1)ウ	・各学校で実施される行事のねらいを達成するために何を行うのかを話し合う。 ※学校行事の大幅な精選を踏まえ、該当する行事を絞り込むようにする。
6	いじめのない楽しい学級に しよう	(1)ア	・いじめを生まない集団をつくるためにはどうしたらよいか話し合い、みんなで できる取組について決める。※道徳や人権集会等との関連を図る。
7	よりよい学習習慣	(3)ウ	・将来に役立つ学習の方法や工夫について話し合い、今の自分の学び方を改 善するための具体的な目標や方法を決める。
8	「相手の気持ちを考えて」 ～情報化社会におけるモラル～	(2)イ	・インターネット・SNSの利用に関するトラブルの解決策について話 し合い、使用の際に自分が気を付けることを決める。
9	6年生がんばったね会を しよう	(1)ア	・会でどんなことをするか話し合い、内容や方法を決める。 ※共に過ごしてきた友達への感謝を表すとともに、自分自身や学級集団の成長に気付 き、中学校への心構えをもてるような集会が考えられる。
10	中学生に向けて	(3)ア	・中学校入学に向けてがんばりたいことについて話し合い、今後の生活 に向けた具体的なめあてを立てる。

【よりよい学習習慣】 (3) ウ

- ①家庭学習が進まない原因は何か話し合う。
- ②家庭学習が充実するための改善策を話し合う。
- ③個人目標を考える。

4 年間指導計画の見直しの例 中学校第3学年

回	議題・題材	内容	活動内容・留意点 等
1	学級目標、係委員会を決めよう	(1)アイ	・事前に集約していた「どんな学級にしたいか」を基に学級目標を決定する。 ※生徒同士で再会を喜び、互いをねぎらうような温かい雰囲気づくりに努める。 ・生徒の希望を基に、委員会・係を決定する。
2	中学3年生になって	(2)ア (3)ウ	・3年生の学習や生活について知り、具体的なめあてを立てる。不安を解消し、互いに支え合う人間関係を築くことへの意欲をもつ。
3	自分を大切にしよう ～こころのSOSの出し方、受け止め方～	(2)ウ エオ	・ストレスへの様々な対処方法について話し合い、現在及び今後大きな不安や悩みを抱えた際の援助の求め方について考える。※「生活のリズム」「運動、睡眠、食事」等、心身の健康につながる生活について取り上げることも考えられる。
4	望ましい「異性との関わり」について」考えよう	(2)イ	・「異性との関わり」について、養護教諭や専門家の話を聞く。 ・中学生としての望ましい異性との関わりについて考え、これからの自分の行動の仕方、考え方について意思決定する。
5	学校行事を成功させよう	(1)ウ	・各学校で実施される行事のねらいを達成するために何を行うのかを話し合う。 ※体育大会等、他の学校行事と関連させた議題を設定することも考えられる。
6	いじめをなくすためにどうしたらいいか考えよう	(1)ア (2)ア	・いじめを生まない集団、お互いを支え合う学級をつくるためにはどうしたらよいか話し合う。 ※道徳や人権集会等との関連を図る。
7	「私たちの悩み」～進路選択の時期を迎えて～	(2)ウ	・受験期特有の不安・悩みについて、率直に語り合い、解決・解消のための手立てや方法について考える。
8	将来に生きて働く資質・能力とは	(3)ウ	・ロールプレイ「事業所の採用選考面接」を行い、将来に生きて働く資質・能力について話し合い、考えをまとめる。
9	ネットやSNSのトラブルを解決しよう	(2)ウ (3)ア	・ネットやSNSのトラブルについて意見を出し合い、SNSの正しい使い方や望ましい人間関係の築き方について話し合う。 ・ネットやSNSに没頭することなく自らの進路に向き合うことについて話し合う。
10	18歳の私へ	(3)ウ	・中学校3年間を振り返りながら、自分自身の成長を振り返り、18歳の自分へ向けて手紙を書く。

【いじめをなくすにはどうしたらいいか考えよう】 (1) ア (2) ア (道徳科との関連)

①なぜ、いじめがなくならないのか話し合う。

②いじめをなくすための方策を話し合う。

③いじめをなくすためのクラス目標を考える。

④いじめをなくすための個人目標を考える。

なぜ、今、特別活動なのか？

國學院大學教授の杉田 洋 氏より

「たかが特活、されど特活」

「乗ってみたら意外といい車」

「特別活動の本当の魅力とやりがいを知らないままに教師人生を終えてしまう人がいるとしたら、それは不幸なことだ。」
(若手教員の話)



今こそ、特別活動の充実を！！